

第 26 回日中業務交流  
基 調 講 演  
2006 年 11 月 15 日

## 中国国家図書館の短期発展計画

中国国家図書館  
副館長 張玉輝

### 要旨

中国国家図書館は、今後数年間の重要な戦略的好機を捉え、従来の文献サービスの十全化を基礎とし、現代情報サービスの強化を主体に、文化教育の涵養を新たに加え、全く新しいかたちの知識サービス体制を全面的に構築していく。その主な発展項目は以下の 4 点である。

- 1) 「国家図書館第二期工事及び国家デジタル図書館プロジェクト」を完成し、合理的な蔵書構築とサービス体制を実現して、国家図書館の総合的なサービス能力を向上させる。
- 2) サービス刷新に力を入れてサービス水準を向上させ、国家の立法・政策決定、重点的な教育・科学研究・生産、一般公衆のそれぞれに対応した多層的なサービス体制を構築する。
- 3) 文献情報資源の収集と保存を強化して、質の高い国家文献情報資源の保存拠点を建設し、内容豊富で、各種媒体に対応し、様々な言語を対象とした、特色ある文献情報資源システムを作り上げる。
- 4) 「開かれた体制で、相互補完しつつ、成果を共有して、共に発展する」を原則に、国内に立脚しかつ世界を見据えた、全方位的で多層的な交流・協力体制を構築する。

皆様、こんにちは。

始めに中国国家図書館を代表いたしまして、皆様にごあいさつ申し上げます。

中国国家図書館と日本国立国会図書館の業務交流は、今年で 26 年目を迎えました。この四半世紀の間、両館は親密な友好関係を築き上げてまいりました。今後の 25 年間につきましても、この交流を継続し、両館の協力関係を強化していけるよう願っております。ここに改めまして、これまでの 25 年間、両館の協力のために御尽力されました貴館職員の皆様、またこのたび我々を暖かくお迎えくださいました館長並びに職員の皆様に、心より感謝の意を表します。

昨年、村上正志部長が国立国会図書館の代表団を率いて中国を訪問されました。その業

務交流会において素晴らしい報告をしていただいたおかげで、我々は日本の業務状況について理解を深め、大変満足のいく成果を得ることができました。お互いの協議に基づきまして、今年はこちら東京で、当館から基調報告1本、テーマ報告1本、補足報告1本をさせていただきます。前回と同じく大きな成果が得られるよう期待しております。

中国国家図書館が所蔵する文献は、2005年末現在、2,500万冊(件)で、年間の増加数は62.5万冊(件)です。自館作成のデジタル資源については、既に20個のデータベースを作成し、全文イメージデータは10,300万頁に達しています。総合目録編纂は急速に進んでおり、2005年末現在、総合目録センターのデータ総数は145万件に達し、参加機関数は972となりました。図書館間相互貸借及び文献提供の体制は整備されていて、一年あたりの受理数は3万件を超え、2005年の要求達成率は80.7%となっております。年間の来館利用者数は延べ445万人です。文献利用数は高い水準を保っていて、年間の利用数は2,692万冊(件)です。インターネットサービスは益々注目を集めており、ホームページのアクセス数は年間延べ1.9億回となっております。レファレンス申込みも年々増加し、年間の回答数は20万件です。

現在はインターネットの時代であり、情報・知識サービスの分野において、図書館が独占的に優勢を保てる状況ではなくなりました。既に、コンピュータ技術、インターネット・通信技術、データベース技術を始めとする情報技術の激しい衝撃にさらされています。ネット環境下社会における新たな知識共同体が形成される中で、図書館がいかにその力を最大限に発揮し、在るべき地位を占めるか。これは我々が直面している厳しい挑戦でありませんが、同時にそれは図書館事業が発展するための新たな好機でもあります。また、当館は中国の国立図書館として、中国国内の図書館事業発展のために、いかなる指導的な役割を果たしていくかも考えなければなりません。

以下、今後数年に向けての中国国家図書館の戦略計画を簡単に御紹介し、日本の同僚の皆様にご覧いただき、当館の短期的な発展方向を御理解いただこうと思います。お互いに理解を深め合うことで、お互いの接近点を探し出せるでしょうし、そこから協力を推進していくことができるものと思います。

今後数年間、中国国家図書館は変動著しい情報環境に適応しながら、従来の文献サービスの十全化を基礎とし、現代情報サービスの強化を主体に、文化教育の涵養を新たに加え、国の総書庫、全国書誌センター、図書館情報センター、図書館発展研究センターを基盤として、文献情報提供センター、図書館協力交流センター、文化教育活動センターの建設に着手いたします。

具体的な計画は以下のとおりです。

## 1. 「国家図書館第二期プロジェクト及び国家デジタル図書館プロジェクト」を完成し、合

**理的な蔵書構築とサービス体制を実現して、国家図書館の総合的なサービス能力を向上させる。**

中国国家図書館第二期工事及び国家デジタル図書館プロジェクトは我が国初の国家レベルのデジタル図書館建設プロジェクトです。12.35 億人民元の国家資金が投入されました。本プロジェクトに係る建築物の総面積は約 8 万㎡で、2,900 席の閲覧席を新たに増設して、一日あたりの来館者収容能力を延べ 8,000 人分拡大します。2007 年 10 月に完成予定です。

デジタル図書館には、文献デジタル化加工センター、デジタル資源加工センター、デジタル資源保存管理センター、ネットワーク管理センター、デジタル資源サービスセンター、システム開発メンテナンスセンター、発展研究センター、展示・研修センターの 8 つのセンターを建設し、膨大なデジタル資源の蓄積、管理、サービスと安全性の安定的確保、信頼性と拡張性をもったネットワーク運用環境ができるようにします。また、応用システムを開発して、デジタル資源の収集から、加工、処理、蓄積、分類、組織、公開、利用に至るまでの全工程のシステム化を実現します。

サービス面においては、国家デジタル図書館サービスポータルを利用し、国家基幹通信網を通じて全国延いては全世界に向けて情報サービスを提供し、所蔵資源の共有化を実現します。利用層に応じたサービス体制を構築し、多種の協力体制と技術手段をもって、多様な情報サービス資源を集成し、中国語情報資源サービスプラットフォームを作り上げます。それにより、様々な人々があらゆる方面から、多くのルートを通じて情報および知識を最大限に得ることができるよういたします。国家デジタル図書館が提供する情報サービスは、将来的には、メタデータを通じて、図書、雑誌、新聞、視聴覚資料などの所蔵資料を全面的に公開することが主眼です。

## **2. サービス刷新に力を入れてサービス水準を向上させ、国家の立法・政策決定、重点的な教育・研究・生産、一般公衆のそれぞれに対応した多層的なサービス体制を構築する。**

サービスモデル：現物文献の提供を主とするかたちから、現物文献とデジタル文献を共に提供する方向へ転換します。また、一般的な文献閲覧サービスから、より深いレベルで各個人を対象としたサービスへ向かいます。

サービス手段：来館による手作業での文献閲覧サービスと、遠隔によるネットワーク化された文献提供サービスを共に重視いたします。

サービス内容：単一形式の資源提供から、複合的な資源提供へと移行します。レファレンスサービスを強化し、ヴァーチャルレファレンスサービスを推進します。文献提供業務を強化し、文献提供の範囲と深さを拡大します。

多層的なサービス体制の十全化：国家の立法や政策決定のためのサービスを第一に優先させます。先進的な技術による、豊富な内容を持ち、迅速に対応できる、中央国家機関の立法・政策決定の情報コンサルタントサービスのプラットフォームを建設し、情報送信サービス、個人向けのカスタマイズサービスなどのヴァーチャルレファレンスサービスを実現させます。

国家の教育・研究・生産組織に対して重点的にサービスをします。重点的サービス領域と、重点的なサービス対象に対しては、サブジェクトライブラリアン制度を段階的に試行していきます。

一般公衆のためのサービスを、精巧さと上質さを追求しつつ、引き続き遂行していきます。来館利用者サービスを土台として、非来館利用者に対するサービスを強化します。現代の科学技術を十分に活用してサービスモデルを刷新し、利用者がインターネットを通じてより多くのデジタル資源を入手できるよう、障壁のないサービスの実現を目指します

### **3. 文献情報資源の収集・保存を強化し、質の高い国家文献情報資源の保存拠点を建設し、内容豊富で、各種媒体に対応し、様々な言語に対応した、特色ある文献情報資源システムを作り上げる。**

これから数年、文献情報資源の媒体は多様化の趨勢にあり、これに対応して、当館の中国語文献収集には、「中国語文献は網羅収集を目指す」・「国内出版物は網羅収集を目指す」方針を採用しています。各種のルートを通じ、多様な手段により、未所蔵の文献を補充し、国家図書館を世界における中国語文献情報資源の保存拠点とします。

外国語文献収集は「外国語文献は精選する」方針を採用しています。適切な時期に外国語文献収集の範囲・重点を調整し、海外の中国学文献を全面的に所蔵し、外国語の社会科学文献や、国際組織・外国政府の出版物、及び外国のネットワーク出版物のうち一次文献の収集を強化し、マイナー言語文献やアジアの国家並びに地域の出版物の収集を適宜増加させ、利用可能な外国語データベースの種類や範囲を拡大し、国家図書館を中国国内における外国語文献情報資源の最大の所蔵先としていきます。

デジタル資源の収集を極めて重視しており、音楽映像資料・電子出版物・ネットワーク出版物など新しい形態の文献の収集を拡大させます。

### **4. 「開かれた体制で、相互補完しつつ、成果を共有して、共に発展する」を原則に、国内に立脚し且つ世界を見据えた、全方位的で多層的な交流・協力体制を構築する。**

開かれたかたちで、他機関と協力し、成果を共有することは文献情報機関の共通認識となっています。国立図書館として、国内並びに国際的な図書館交流や協力事業に参画していきます。

国内における交流・協力事業の方面では、担当する国家レベルのプロジェクトを紐帯として、新しい科学研究プロジェクトや業務プロジェクトを策定し、各館種・各地域の図書館との協力を推進し、拡大していきます。中国図書館学会、全国図書館文献マイクロ複製センター、全国図書館総合目録センター等の業務を通じて、各種学术交流と業務交流を積極的に組織していきます。

国際交流と協力の方面では、国家を代表して、対外的文化協定・対外的宣伝活動を行います。すなわち、IFLA などの国際組織や活動に積極的に関与すること、世界の図書館界の二国間・多国間の業務検討や交流活動を積極的に組織・参加し、実質的な内容のある国際的な協力プロジェクトを追求すること、国外の図書館との文献交換・業務交流・職員の相互訪問を強化すること、所蔵文献の館外への出品・展示を促進すること、などです。

以上が当館の今後数年の発展構想ですが、これを叩き台として、協力の考え方を提供し、日本国立国会図書館との交流を強化するとともに、双方により深いレベルでの業務協力をもたらし、新しい協力領域を絶えず模索していくことを望みます。

日中両国はともに大国であり、両国の国立図書館は当然、意思疎通と協力関係を維持し、強化し続けるべきです。これにより双方の業務構築を促進し、ともに向上することは、両国の文化交流を体現したものとして重要です。両館が IFLA において協力を強化し、国際図書館事業において、その国際的地位に相応しい活躍をしていくことを希望します。